

イサオ・イシイといふ言ひ方

“姓名”といふ言葉が示してあるやうに、日本人は、家の名前である“姓”を先にし、個人名を後にする、といふ習慣を有つ。これに反して欧米人は、個人名を先に言ひ、家の名前を後にする。然しながら、日本人に限って、欧米人に対して名乗る時には、欧米流に「イサオ・イシイ」といふやうに姓名を逆さにして言ふのが普通である。

ところが、この頃、日本人のこの習慣を「卑屈だから改めるべきだ」といふ意見を耳にした。然し、これは決して卑屈で欧米人に迎合してゐるのではない。これは、我が子に対して「お父さん」を自称し、甥や姪に対して「伯父さん」を自称するのと同じ精神から生れたものである。

“日本の言葉”の章で述べたやうに、欧米人は相手に関係なく、“I”といふ風に自称するけれども、日本人は相手に合った言葉を選んで使ふ。この「相手に合せる」といふのが“日本の心”なのである。だから、欧米人が姓を後にして言ふ習慣を有つと知れば、その習慣に“合せて”「イサオ・イシイ」と名乗るのである。だから、これは卑屈ではなくて“思ひやり”の心の現れであり、“大人^{たいじん}”の行為なのである。

然し、「それは欧米人を見下した、日本人の思ひ上った行為だ」と言ふならば、「イシイ・イサオ」と名乗るやうに改めなければならぬであ

らうが、さてさうなると混乱が起って、一々名乗るたびごとに説明しなくてはならなくなって、お互ひに迷惑することになると思ふ。

ところで、相手の習慣に“合せ”て自分の姓名を逆さにして名乗るのは、世界広しといへども、日本人だけではないだらうか。もしほかにあったらお教へ頂きたい。中華民国台湾省の方の中には時々見かけるけれども、これは日本の教育を受けた方々であって、それは日本の習慣に従つたものである。

さう言へば、西欧の人でも、日本の文化に心引かれた人の中には、「小泉八雲」のやうに日本名を名乗る者も無いではない。現今でも、イスラエルの漢字研究家のジャック・ハルペン氏は、「春遍雀来」と名乗ってゐらっしゃる。然し、かういふ方は、西欧人としては例外と言ふべきであらう。

それにしても、「春遍くして雀来る」とは何とも見事なお名前ではないか。一度名刺を交換したら、もう一生忘れないだらうと思ばれる。然しながら、それはとも角、「ジャック・ハルペン」といふ名刺をもらふよりも、「春遍雀来」といふ名刺をもらった方が、どんなに嬉しいか知れない。やはり、「相手に合せようとする心」は、人と人とを親しく結び着ける働きを有つた、これからの世界に生きる人間として最も必要な心構へではないだらうか。